

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

昨日は、暦の上では「入梅」から約30日後の「梅雨明け」だったが、連日豪雨が全国各地を襲い被害が多発した。

普段は土の中で暮らし、自然界では土壌の分解者として欠かせない存在で、人を嘔むこともなく、農作物などにも食害を出すことが無い「ヤスデ」が大量発生して、水溜まりを避けて毎朝驚くほどの数が家屋のコンクリート壁を這い回っている。ヤスデの体液がツルツルなだけでなく、とてもきつい匂いを放ち、体液は胃酸やヨーグルドが含まれ、皮膚につくと痛みを生じることがある。さらに目に入ると結膜炎を起す可能性もあるので直接触らないことだ。家に寄せ付けない方法もある

ので家屋侵入防止のために、駆除を行ってほしい。

梅雨の時期には気が沈みがちになるものだが、知人の加藤和郎さんが、知人の加藤和郎さんから小説家・吉川英治の名言が贈られてきた。「晴れた日は晴れ

自然界の異変には注意が必要だ

を愛し、雨の日は雨を愛す」「楽しみがあるとこころに楽しみ、楽しみないところを楽しむ」「雨の日を『あいにくの』とか「天気が悪い」なんて言わずに、それなりの風情を楽しんだら」と。言葉使いには気を

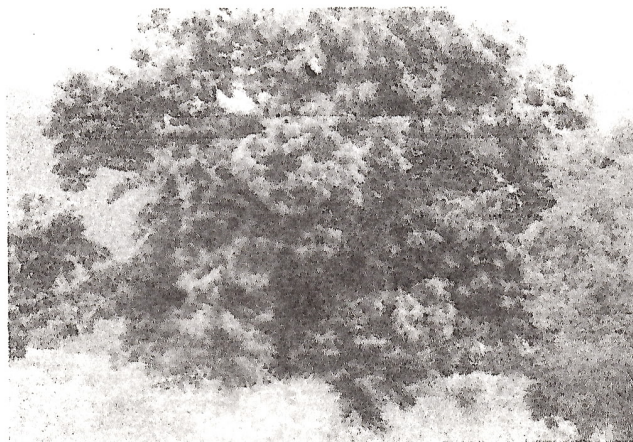
付けてなくてはと気づかせてくれる。

今年エーザイと米バイオシエンが開発したアルツハイマー病治療薬「レカネマブ」を7月米食品医薬品局が承認とのうれしい情報が発信された。また進行

抑制効果や投薬方法・高額な薬剤費など課題も多いが、高齢化社会の到来や自まぐるしく変化する情報社会では認知症の克服に明るい兆しだ。

親・教場0」で認知症の母を抱える粗暴な性格の刑事・中込兼児役を染谷翔太が演じた。毎週木曜日に徘徊する母は、4歳の時に誘拐された息子を探すために街に出掛けていて、何の目的もなく徘徊しているのではないとのストーリーだ。

痴呆を認知症と国が言い直して約20年たつが、まだ多くの偏見は残っている。目的もなく、うろつろ歩き回る徘徊の表現も偏見の最たる部分だ。どこを歩いているかわからなくなつて道に迷うが、理由なく出かけたわけがないとの実態も多いと聞く。全国の自治体でも徘徊ではなく、「ひとり歩き」「行方不明の恐れのある人」と優しい言い回しを使い、誤解や偏見のない地域づくりに取り組んでいる情報もある。私たちの地域もそうなるってほしいと願っている。



栗の花言葉は「真心」「豊かな喜び」木言葉は「公平にせよ」猛暑により生理落果が無いことを祈るばかりだ

(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)